

■ 平成 25 年度国土交通省「国土技術研究会」について

北海道開発局 港湾空港部港湾計画課 三岡照之

国土交通省「国土技術研究会」は、国土交通省所管の住宅・社会資本整備行政に係る技術課題、中長期的又は緊急的に取り組むべき技術課題等について、本省、地方整備局、北海道開発局、地方航空局、試験研究機関等が連携を図りつつ調査・研究を行い、議論を重ねることにより、国土交通省が所管する住宅・社会資本整備に関する技術の向上と行政への反映を図ることを目的として毎年開催されています。

11月7日、8日の両日に霞ヶ関の中央合同庁舎2号館において開催された研究会に、参加してきましたので概要を報告します。



7日（木）は、午前中指定課題等についての個別発表があり、午後からは東京大学大学院工学系研究科の家田仁教授の特別講演「今後の社会資本

の維持管理・更新のあり方」がありました。引き続きパネルディスカッション「社会資本の維持管理・更新に関する各機関の取組状況と今後取り組むべき施策について」が開催され、家田先生始め、成蹊大学経済学部の井出多加子教授などの有識者による活発な議論が行われました。

パネルディスカッションでは、今回の国土技術研究会の主なテーマである「社会資本の維持管理・更新」を中心とした議論が進められましたが、特に、「新築事業は、技術者も建設業者等もモチベーション高く取り組むが、維持管理事業などはモチベーションが低いのではないか。新人も「大きな橋を建設したい」と入ってくる者はいるが、「この橋を維持管理したい」と入ってくる者はいない。ゼネコンも維持管理の新たな技術開発には積極的でない。しかし、大事な事だから皆がモチベーションを持ってもらえるような仕組みを考え

ていく必要があるのでは」との家田先生の問いかけは、とても興味深い課題かと思いました。

8日（金）は、自由課題を中心に51課題の報告（北海道関係は6課題）が行われました。道路路面下の空洞を発見する技術、河川堤防における物理探査手法を用いた総合安全性評価（簡易な物理探査、過去のデータ等の情報から健全度を総合的に判定する手法）など、様々な土木技術や、各種災害（地震・高潮等）時の被災対応から得られた新たな知見について報告等があり、とても有意義な1日となりました。

私も昨年度の北海道開発技術研究発表会で発表した「国際物流活性化の検討について～北海道国際輸送プラットフォームの構築～」について、北海道代表として報告してきました。数ある全国の土木技術の発表に混ざり、ソフト的な取組で少し違和感を感じつつ、とてもおもしろい取組だと興味を持って聞いて頂き、沢山の質問も受け、北海道代表に恥ずかしくない発表はできたのではないかと思います。補足ですが、部門毎に最優秀賞と優秀賞が選ばれる中、私も優秀賞を受賞し、足立技監から表彰状を頂いてきました。これも「北海道国際輸送プラットフォーム」の取組に協力頂いている皆様のお陰かと思っておりますので、この場を借りて感謝申し上げます。

研究会での報告の様子（筆者）



研究会での報告の様子（筆者）